人道

九州から本州を、あるいはその逆を歩いたと主張する人は、おそらく眉をひそめられるだろう。なにしろ2つの島は、最も狭いところで0.5キロメートルという大きな水路である関門海峡によって隔てられているのだから。それでも、歩行者は波のはるか下にある歩道で、定期的に２つの島の間を行き来している。

関門トンネルは1958年3月9日、車両と歩行者の通行のために開放された。当初、トンネルの上部は1車線の車道で、下部は歩行者と自転車専用だった。全長780メートルのトンネルには、下関側に深さ55メートルのエレベーターシャフト、門司側に深さ60メートルのシャフトがある。徒歩の場合は無料で利用できるが、自転車や原付を押して島から島へ移動する場合は20円の料金がかかる。

徒歩の場合、海峡を潜るのに15分ほどかかる。山口県と福岡県の海底の県境は、トンネルの一番深いところに太い線で表示されている。多くの初めての歩行者は、頭上を行き交う交通音を聞きながら、2つの県をまたぐ貴重な機会を利用する（そして写真を撮る）。このトンネルはまた、雨や風を完全にしのげる冷房完備のコースとして、ウォーキングやジョギングをする人たちにも人気がある。